

「年長児の遊びの選択は、集団とか友情を育てる上で重要である。多くの場合一人の子どもが遊びを思いつき、残りの子どもたちが彼に従う。しかし、一人の子どもが他の子どもを抑圧するようなことを許してはならない。教師は子どもらを注意深く見守り、おとなしい子どももの提案も取り上げるようにしなければならぬ。誰でもが遊びを思いつく権利があり、誰のものがよいかは集団が決めるという精神を少しずつ養っていかねばならない」

メンジェリツカヤは幼児を社会生活に親しませるためにどのような創造的遊びをさせたらよいか、遊びの役割についての共同研

## 問題児の側から

幼稚園や保育所が、子どもの社会性を伸ばした役割は、非常に大きいものがあった——この十数年を振り返ってしみじみ思われることです。この二つの施設における教育が、子どもの社会性を伸ばす推進力になったのか、親たちのニーズが高まったことに

究を続けている。上掲の個所ではとくに遊びの指導面について触れていることが多いが、労働に対する理解とか友情の発展についてかなり特色をもった道徳性の育成が教育の根幹に流れていることを感じさせる。困情の違いによって教育の方法に多少の差異はあるけれども、教育観とか人間観の確立が保育者の意識の上に必要なことを考えたい。近く幼稚園教育要領も改訂されるというが、その意味でも思慮ふかい配慮のもとにつくられることを期待したいものである。

(神田寺幼稚園長)



平井信義

応ずることになったのか、おそらく両者が相俟って、よい結果を生んだと言えましょう。小学校入学式の折に、泣くような子どもは殆どなくなつた——というのが、長年小学校教育にたずさわつてこられた先生方のご感想であります。

子どもの社会性を考えるとき、三つの要素が頭にかんできません。一つは、社会の中で他人の助けをかりずに行動するのに必要な自立心であり、第二は社会に広く目を向けそれに興味を感じる心であり、第三には、社会にある約束を守ることを通じて、他人の心を思いやる心だと思えます。これらが、幼児教育の中でどのように養われたか、とにかく、子どもについての相談を受ける立場からみると、再び新しい問題が生じていることが感ぜられます。

① 自立心を望む余りに

近頃、子どもの自立心を望む余りに、親たちの要求が高くなり、正常に発達している子どもまで問題児にしてしまっていることが少なくありません。返事にとまどったり、はずかしがるという態度を示すと、それだけで自立心のない子どもと考えて、相談にくる親たちが多くなつたのです。子どもは毎夏引つ込み思案の子どもの合宿治療をしています。引つ込み思案で困ると訴えられていた子どもたちが、我々の目からみるとかなり積極的な行動を示しています。殊に、お母さんから離れると、積極的になる子どもが多いのです。つまり、お母さんの要求が強い一方、引つ込み思案な子どもだと思ひ込んでいるお母さんのとりこになつていく子どもが少なくないのです。

自立心への要求は、幼稚園や保育所の先生方にも強くなつてい  
るのではないだろうか。小学校の先生方が問題児を考えられる  
場合には、引つ込み思案の子どもが浮かんでくるものが少ないの  
ですが、幼・保の先生方ははるかに多く引つ込み思案の子どもを  
問題にされています。教育の形態からくる差もあると思ひます  
が、先生方の意識の差もあると思ひます。

② 自立しすぎる——ということ

西ドイツの幼稚園を何回か訪ねたときのことを思い出します。  
西ドイツでは幼稚園と保育所とは制度の上では別れていないの  
で、私が訪ねたのは我が国の形からいえば、保育所に相当する幼  
稚園でありました。その子どもたちの行動をみていますと、我が  
国の子ども以上に自立心がさかんことがわかります。私は、半  
ば褒める気持を含めて、そのことを先生に言つてみたのです。

ところが園長の女の先生は、

私は、実は、余りに自立しすぎていることを危険に思つてい  
ます。自立心は大切ですが、その背後に親から離れていることが  
多いという問題があると、たいへんだと思ひます。親子関係が薄  
い子どもは、社会的には自立しているようであるけれども、暖い  
人間関係を作り上げる感情に欠ける恐れがありますからね……

この答えは、既にホスピタリズム（施設病）の研究者たちが指

摘しているところですが、私もそれを知ってはいたのですが、こうして保育者の口から直接きかせられると、心に深く残ることでありました。

現在、社会の教育施設や保育施設が充実するにつれて、家庭における子どもの生活が少なくなってくる傾向が増えています。お母さんたちが働きに出たり、社会的に活動することについては、いろいろな理由から、賛意を表している私ではありますが、一方、家庭というものが大切であることを思うと、母と子や父と子が、ゆっくりと接触し合い、お互いに人格を反映し合っていくことが強く望まれるのです。子どもを育てる楽しさ、及び家庭というのはのよさは、そうした子どもとの接触によって実現できる面が大きいのですから……

### ③ ルールを守る気持を。

現在の我が国の混乱が、その一面ではお互いのルールを守る気持が少ない人たちが増加していることにあることは、否定できないと思います。その点で、幼稚園・保育所において集団の持つルールを守り、ルールが大切なことを身につけていく子どもが増加していることは、非常に大切なことと思います。

しかし、子どもの相談施設では、ルールを守る気持の少ないことに原因する子どもの問題がふえています。社会性のない——と

いうことで、その原因を探りますと、家の中で子どもと共に守り合うルールを設けてなかったり、子どもの言いなりになっているご両親が少なくありません。それが幼稚園や保育所に持ち込まれ、保育しにくい子どもの姿となって現れているのです。

一と昔前は、家族制度や封建制度を背景としていたとは言え、家庭の中にルールがあつて、それを守るよう厳としてしつけられたものです。古い家族制度はもはや認めることはできませんが、新しい家族共同体の中のルールをきめて、それを守る気持を育てていかなければなりません。それには、新しくルールを作り出すことも、考えなければならぬと思います。その気持が、やがて集団に入つて、集団のルールを守りながら、新しいルールを作り出す力となるのです。それを具体的に実現するには、もっと日常生活の中で、その運営に参加してもらふこと。いわばお手伝い——ということにもなりますが、古い意味でのお手伝いではなく、家族共同体の運営という意味で大切なことと思います。それが、子どもの遊びと異質にならないように工夫されれば、子どもの社会性は、すばらしく伸びていくでしょう。

そのような家庭指導も大切ではないでしょうか。

(お茶の水女子大学)

\* \* \*